



帆足本家酒造蔵



帆足本家住宅(富春館)

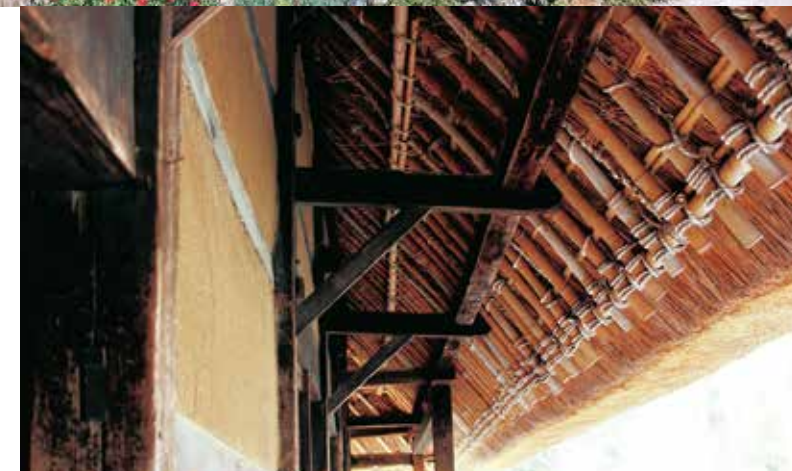
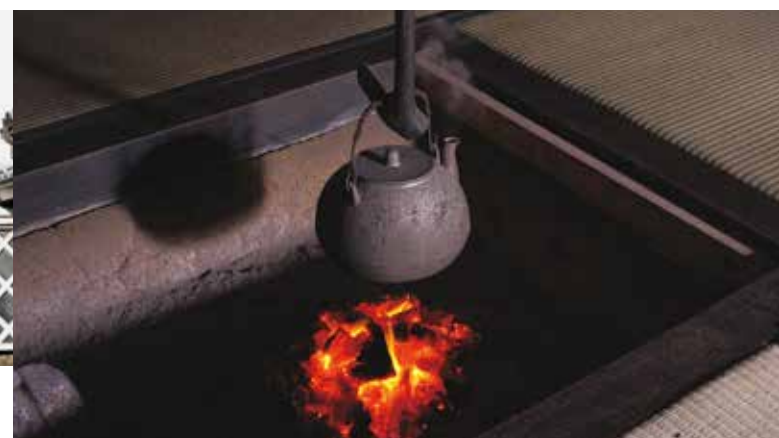


後藤家住宅

建物は、屋根が4つの面を持つ寄棟造で、大分市で最も古い民家といわれている。



外壁のなまこ壁は、屋根と同じ色で合わせられている。



現代に残る建物が、歴史を伝える

後世に残すにふさわしい文化財として指定・登録された建物は他にも。当時の人々の生活を今に伝える貴重なものとして現存しています。

後藤家住宅

国指定重要文化財

江戸時代後期に建築されたとみられる後藤家住宅。後藤家は、岡藩の庄屋を勤めたといわれ、野津原地区に現存する建物は、後藤家本家の母屋として使われていました。

その特徴は、県内の農家住宅の典型である直屋(建物)の平面が四角く、突出部分などがない建物で、断熱性や保温性に優れた茅葺屋根になっています。昭和52(1977)年に本格的な修理を実施しましたが、以前は屋根の茅をおよそ10年〜20年に一度、葺き替えていたそうです。骨組みは、柱を切り込んで接合する手法がとられているなど昔ながらの方式で建てられていることから、学術的な価値が高いとされています。中には囲炉裏があり、当時の生活を垣間見ることが出来ます。貴重な建築として長く保存するために、昭和50(1975)年、国の指定重要文化財になりました。

DATA

- 所在地 大字荷尾杵1161
- その他 見学は外観のみ。

帆足本家酒造蔵

市指定有形文化財

帆足本家住宅(富春館)

国登録有形文化財

酒造蔵は江戸時代末期から明治にかけて建築された木造建築物で、酒造業の工程がよく分かる建築物として、平成11(1999)年に市指定有形文化財になりました。外壁は「なまこ壁」という、瓦を土壁に貼り付けて漆喰で押さえた壁となっており、風雨や火災に強く、見た目も美しいという特徴を持っています。また酒造りのための広い空間が必要であったため、酒造蔵内部には太い梁が架けられています。

帆足本家住宅(富春館)は慶応元(1865)年に臼杵の棟梁である高橋亦右衛門政和により建てられ、平成18(2006)年に国の登録有形文化財になりました。

帆足本家酒造蔵 DATA

- 所在地 中戸次4381-1
- 公開時間 午前9時〜午後4時30分
- 休日 毎週月曜日
- (月曜日が祝日の場合は翌日)、年末年始
- その他 一部立ち入りできないエリアがあります。